

体育科学習指導案

2年2組 26名 指導者 中野正尚

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 多様な動きの中で取り上げた運動遊びは、運動そのものを楽しみながら、運動の特性に触れることができる内容であったか。
- これまでの遊びや運動経験を活用して、多様な動き遊びに取り組み、基本的な動きを身に付けることができたか。

1 単元 体づくり運動 ～いろいろな動き遊び～

2 目標

楽しみながら多様な動きを経験する活動を通して、自分の体に関心をもつとともに、自分の体を十分にほぐしたり、基本的な動きを身に付けたりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

- 心と体をほぐす動き、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きの基本的な動きができる。【運動】
- きまりを守って、友達と仲よく運動をしたり、体を動かす楽しさや心地よさを感じたり、場の安全に気を付けたりすることができる。【態度】
- 体をほぐしたり、多様な動き遊びの行い方を理解して動きを工夫したり、楽しく運動したりすることができる。【思考・判断】

4 単元について

(1) 単元の価値

子どもたちにとって体づくり運動は、これまでの遊びや運動経験から得た動きや感覚を生かしながら、体を動かす楽しさや心地よさを感じることができる運動である。また、手軽な運動や律動的な運動を通して心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたりすることができる運動でもある。そして、心をリラックスさせて行うことによって、楽しさや心身の開放感を味わうこともできる。さらに、自分の体の状態に気付いたり、友達と交流したりすることで、運動することの楽しさやよさ、素晴らしさを体験を通して感じることもできる。

体づくり運動は、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、自分の体の状態を整えたりする「体ほぐしの運動」と、体の基本的な動きを総合的に身に付けるための「多様な動きをつくる運動遊び」から構成されている。「多様な動きをつくる運動遊び」には、体のバランスをとったり、移動したりする動きや用具を操作したり、力試しをしたりする動きが含まれ、これらの内容を組み合わせて学習を組み立てていくことで、さらに意欲が高まり、動きの幅も広がっていく運動である。運動を楽しく行い、力いっぱい活動することを通して、運動に対する充足感の高まりやそれから生じる運動欲求を高めたり、広げたりすることで、体の基本的な動きを培っていくことができる。

しかし、遊びや運動の経験が少ないため、運動の仕方、仲間との関わり方などに戸惑いを感じ、体づくり運動を消極的に捉える子どももいる。このような子どもたちに基礎的で多様な動きを身に付けさせることは、とても重要な意義がある。

本単元での運動の経験は、第3学年の体づくり運動（「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動」）を中心に、他の運動領域の基礎となる動きにつなげていくものである。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは運動好きな子どもが多く、体育の授業だけでなく、休み時間も外で元気よく遊ぶ。しかし、いくつかの運動（運動領域）に対して苦手意識をもつ子どももおり、積極的に運動遊びをする子とそうでない子の二極化が見られる。

子どもたちは、第1学年の基本の運動において、いろいろな運動遊びを学習してきており、体づくり運動に類似した内容を経験してきている。しかし、心と体を一体と捉えることや多様な動きづくりの運動の経験は十分とは言えず、実際に学習を進めながら多様な動きづくりの行い方や動きの理解を図っていく必要がある。

本単元では、まず、1年生で学習した基本の運動や生活経験における遊びを想起させ、それらが体づくり運動でも生かすことができることを意識させる。

展開では、様々な動きを体験することができるようにするために、多くの体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動遊びに取り組むようにする。その際、ステーション方式で体ほぐしを含めたいろいろな運動に取り組む。また、動きの構成要素に偏りがないように、単元全体でバランスよく運動内容を経験することができるようにするとともに、友達と協力して活動し交流することで、学び合いや励まし合いができるようにしていく。さらに、子どもたちの関心・意欲を維持させていくために、個、ペア、グループなど活動形態を工夫したり、ゲーム的な内容を取り入れたりしていく。このような活動を進めることで、ルールや勝敗を尊重する態度を育て、体を動かす楽しさや心地よさも味わわせていくようにしたい。

5 本 時 (3/4)

(1) 目 標

多様な動きをつくる運動遊びに熱中したり、適度にリラックスしたりしながら、基本的な動きを体験し、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるようにする。

(2) 評価規準

運動の行い方を考えたり、友達と協力し合ったりしながら、いろいろな運動遊びに取り組み、体を動かす楽しさや心地よさに気付くことができるようにする。 【思考・判断】

(3) 指導に当たって

本時の学習では、ステーション方式で体ほぐしを含めたいろいろな運動遊びに取り組むこととする。多くの体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動遊びを体験することで、動きの多様性を意識しながら学習を展開していく。また、楽しみながら自分の体や心の一体感に気付くことができるようにすることをねらいとしている。

導入では、前時までに学習してきた運動内容について振り返るとともに、学習のねらいを確認し、「体づくり運動でいろいろな動きに挑戦しよう」という課題を提示して、めあての焦点化を図るようにする。

ねらいをもとにした活動では、個やペア、グループなど活動形態を工夫しながら体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動遊びに取り組むこととする。さらに、子どもたちの気付きや感想を発表する場を設定し、体を動かす楽しさや心地よさに気付くことができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子どもの意識  教師の手立て ※評価

時	主な学習活動と教師の手立て・評価	
(分)	1 本時のねらいを知り、活動のめあてをもつ。 体づくり運動でいろいろな動きに挑戦しよう。 ・今日は、どんな運動遊びをするのか楽しみだな。 ・友達と一緒にたくさん動いて、運動遊びをしよう。 ・汗をかくぐらい思いっきり動こう。	前時までに学習してきた運動遊びを想起させ、体を十分に動かす楽しさや心地よさに触れさせるようにする。また、運動遊びの種類を意識させながら本時のねらいへつなげる。
8	2 準備運動を行う。	本時の学習で取り上げる運動遊びについて4つの内容に分類したポイントボードを示し、どのような種類の運動遊びを行っていくのか見通しがもてるようにする。
30	3 ねらいをもとにした活動を行う。 (各運動遊びごとにステーションを設置)	体ほぐしの運動は、子どもたちが楽しみながら意欲的に取り組むことができるようにする。また、体への気付き、体の調整、仲間との交流にかかわる動きの内容とし、体や心をほぐすことができるようにする。
	(1) 体ほぐしの運動 ・腕を揺すってもらいと力がぬけて心もほっとするね。 (2) 多様な動きをつくる運動遊び ○ 体のバランスをとる運動遊び ○ 体を移動する運動遊び ○ 用具を操作する運動遊び ○ 力試しの運動遊び ・ゆりかごは自分のおへそを見るとスムーズにできるね。 ・両手、両足を使って動き回るのは、大変だな。 ・腕を思い切り振って、遠くにボールを投げよう ・ケンケンする足を変えてケンケン相撲に挑戦してみよう。	多様な動きに触れることができるようにするために、4つの運動遊びを各ステーションに取り入れるようにする。
7	4 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ・力いっぱい体を動かすと気持ちいいね。 ・Aさんの心臓はドキドキしていたよ。 ・体も心も温かくなったよ。 ・お友達と一緒に運動遊びをすると楽しいね。	個、ペア、グループなど活動形態を工夫し、多様な動きをつくる運動遊びの内容がより効果的に行えるようにする。 友達やグループで協力し、教え合いながら活動を進めていくことを価値付けるようにする。
	いろいろな動きの運動遊びをして、体を動かす楽しさや心地よさを感じることができた。	※ 運動の行い方を考えたり、友達と協力し合ったりしながら、いろいろな運動遊びに取り組むことができる。(観察) ○ 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができた子どもには賞賛し、価値付けを行う。 ○ 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができず、活動に消極的な子どもには教師が補助をし、一緒に行うようにする。
	5 整理運動、片付けをする。	本時の学習を振り返り、体や心への気付きや仲間との交流の視点から、気付いたことや感想を全体の場で発表させることで、次時からの学習に生かすようにする。